

2017（平成29）年度東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

言語研修生募集要項

ILCAA Intensive Language Courses 2017

言語研修について

この研修はアジア・アフリカ地域での現地調査・研究や専門的業務に役立つ現地語の習得を目指す短期集中型語学研修です。日本の専門研究者と母語話者とが一緒に教授にあたる生きた言語教育である点が特徴です。

大学在学学生、大学卒業者または上記の目的に必要な学力及び動機をお持ちの方であれば、ご応募いただけます。

募集言語について

ハンガリー語、ジャワ語

各言語の研修期間、研修時間など、研修内容についての詳細は、それぞれのページをご覧ください。

募集定員について

各言語 約10名（当研究所で書類審査により選考します。）

募集期間について

第一次募集期間：2017年5月1日（月）～ 2017年5月25日（木）

受付時間 午前9時30分～午後5時（正午～午後1時を除く）

持込みの場合、土・日・祝日を除きます。

郵送の場合は、5月25日（木）必着です。

Eメールの場合は、5月25日（木）日本時間午後5時必着です。

定員に満たない場合は、二次募集を行います。定員に達すれば、二次募集はありません。

第二次募集期間：2017年6月1日（木）～ 2017年6月26日（月）

受付時間 午前9時30分～午後5時（正午～午後1時を除く）

持込みの場合、土・日・祝日を除きます。

郵送の場合は、6月26日（月）必着です。

Eメールの場合は、6月26日（月）日本時間午後5時必着です。

[主催／企画] 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 <http://www.aa.tufs.ac.jp/>

[協力] 大阪大学大学院言語文化研究科 <http://www.lang.osaka-u.ac.jp/>

【同時募集】2017年度短期言語研修 [特別企画]

史料講読研修「中国古代文書簡牘」

Short-term Intensive Language Course 2017

Special program on Readings of Ancient Chinese Administrative Tablet Documents

応募方法は、通常の研修と同じです。研修内容詳細は、9ページをご覧ください。

応募方法について

所定の受講申込書に必要事項をご記入の上、在学証明書又は最終学校の卒業証明書(写)を添えて、お申し込み下さい。

※申し込み方法は、直接持ち込み、郵送、Eメールのいずれかとします。

※申込書に記入いただくEメールアドレスは、選考結果通知PDFをお送りしますので、ilcaa-ilc@tufs.ac.jp からPDFファイルが受信できるアドレスをご記載ください。

※郵送の場合は、封筒の表に「言語研修〇〇語申し込み」(史料講読研修の場合は「短期言語研修申し込み」と朱書き願います。

受講申込書送付先および各種問い合わせ先について

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所2階206室

研究協力課共同研究拠点係

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

TEL 042-330-5603, FAX 042-330-5610

Email ilcaa-ilc@tufs.ac.jp

選考結果について

受講の可否は、一次募集応募分については、6月末までに本人あてにEメールにて通知します。二次募集を行った場合は、7月下旬までに本人あてにEメールにて通知します。

受講手続きについて

受講を許可された方は、所定の期日までに、研修言語ごとに定められた額の受講料等を一括納付して下さい。

受講料等は各言語ごとに異なりますので、それぞれのページをご覧ください。

受講料振込先情報および振込期日は、選考結果通知に記載してあります。

口座振込に係る手数料はご負担ください。

修了要件と修了証書について

研修言語ごとに定められている授業時間数の3分の2以上出席し、かつ所定の成績を収めた受講者に修了証書を交付します。

文化講演について

研修期間中、文化講演として、担当講師以外の外部講師を招いた授業を取り入れています。文化講演は一般向けに公開することがあります。

受講までの流れについて

受講申込



郵送, Eメール, 直接お持込にてお申込みください.

確認メール送信



郵送またはEメールにてお申込みいただいた方には, 受付確認メールをお送りいたします.

選考結果通知をメール送信



選考を通過された方には, 受講料等振込先および, 初日の集合時間等についても, あわせてご案内いたします.

受講料振込



通知書に記載された期日までに, 受講料等をお振込みください.
振込手数料は自己負担となります.

受講料振込確認メール送信



期日までにお振込が確認できない方には, 事務局から確認メールをお送りします.

研修に関する連絡をメールにてお知らせ



各言語ごとにメーリングリストを作成し, 必要に応じて, 研修に関するご連絡を差し上げます.

研修開始

ハンガリー語

》 初学者向け 》 東京会場 》 日本語での授業

ハンガリー語は中央ヨーロッパのハンガリーで話されている言語です。話者数はハンガリー国内で約1千万人、他に周辺諸国のルーマニア(トランシルヴァニア地域)、セルビア(北部ヴォイヴォディナ地域)、ウクライナ(ザカルパチア地域)、スロヴァキア、オーストリア(ブルゲンラント州)、そして、アメリカやカナダ、オーストラリアといった新大陸にはあわせて約500万人のハンガリー語話者が存在します。

言語の系統としてはウラル語族フィン・ウゴル語派に属しているため、ヨーロッパの大部分の言語が属しているインド・ヨーロッパ語族とはその文法的特徴が異なります。特に重要なものとして、1)動詞の不定／定活用、2)豊富な格接尾辞、があります。1)に関して、ハンガリー語は印欧語族と同じく主格・対格言語ですが、その動詞活用は主格主語だけに呼応するのではなく、対格目的語が定まっていなかったものか(不定活用)、定まっているものか(定活用)にも応じる言語です。2)は、特に場所を表す格接尾辞が体系だって備わっている言語であり、後置詞言語であることから、日本語の格助詞と大変似ているものです。

以上から、これらのハンガリー語の特徴は印欧系の言語に馴染んだ語学学習者からすると大変珍しいものであることでしょう。この研修では、ハンガリー語の文字と発音から、基本的な文法事項および会話などを学びつつ、その歴史や文化(民族舞踊など)にもあわせて触れていきたいと思えます。

研修の対象者について

主としてハンガリー語を学習したことのない方、初心者をご研修の対象とします。同時に、過去に学習したことがあるが、今ではほとんど忘れてしまったような方も歓迎します。

研修内容について

研修では、初めてハンガリー語を学ぶ人を対象に、正しい発音とイントネーションを基本に、名詞・形容詞の複数形と対格形、動詞現在形の不定・定活用、そして様々な場所の接尾辞を学びます。続いて、不定詞表現、所有表現、動詞の過去形、そして、ハンガリー語文法の中でも難しい命令形を学びます。命令形は中級の文法事項であるにも関わらず、実際の会話では大変よく使用されるものです。会話上達のためには必須の学習項目と言えるでしょう。その後、仮定形、動詞接頭辞の意味用法、関係節、使役文、さまざまな接続詞を使った文を学びます。こうして、ハンガリー語の文法をひとつひとつ学習し終えると、(辞書を使いながら)書籍や新聞などが読めるレベルに達することができます。講座ではネイティブ講師との会話も同時並行しますので、会話面においても、普段の日常会話には困らないレベルに至ることでしょう。

テキストについて

テキストは、読み物、文法説明、単語集と練習問題によるものを準備する予定です。

研修期間および研修時間について

2017年8月17日(木)～2017年8月30日(水) 70時間
午前9時00分～午後5時15分(土日は休講 ただし8月26日(土)のみ文化講演を実施)

文化講演について

8月26日(土)に実施予定. 詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします.
<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2017>

受講料について

42,000円 (教材費込み)

講師プロフィール ●:主任講師

●大島 一(おおしま はじめ)

東京外国語大学非常勤講師 / 同アジア・アフリカ言語文化研究所
 ジュニア・フェロー

1997年関西外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了後, 政府間交換留学生としてハンガリー・ブダペストのエトヴェシュ・ロラード大学へ留学.

2005年一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了, 博士(社会学)取得.

2002年にはワルシャワ大学東洋学研究所にて日本語専任講師として教鞭をとり, その後, 諸大学・研究機関にて非常勤講師や研究員を歴任. 2012年よりアジア・アフリカ言語文化研究所研究機関研究員として研究に従事し, 任期満了後, 現職.

主にハンガリー周辺地域のハンガリー語方言における言語接触について研究.



秋山 晋吾(あきやま しんご)

一橋大学大学院社会学研究科 教授

1999年から2002年までハンガリー・デブレツェン大学に留学. 2004年千葉大学大学院社会文化科学研究科博士後期課程修了, 博士(文学)取得.

その後, 諸大学の非常勤講師を歴任し, 2010年に一橋大学大学院社会学研究科准教授として着任, 2014年4月より現職.

主にハンガリー, トランシルヴァニアを中心に, 東中欧の社会史を研究している.



BILIK Éva(ビリック エヴァ)

東京外国語大学等非常勤講師

1996年ハンガリー共和国のJANUS PANNONIUS大学理学部教養学部理科, ドイツ語学科専修を卒業後, ドイツのバイロイト大学大学院にて生物学の教授法を専攻.

その後来日し, 現在は, ドイツ文化センターや東京外国語大学, 獨協大学, 早稲田大学等において非常勤講師としてドイツ語を教授している.



ジャワ語

》 初学者向け 》 東京会場 》 日本語での授業

ジャワ語は、インドネシア共和国のジャワ島中部から東部を本拠地として居住するジャワ族の言語で、インドネシア国民の約4割を占めるジャワ族の母語として、インドネシアにおいては国語・共通語のインドネシア語に続き、非常に重要な言語です。ジャワでのフィールド調査時に必要というだけでなく、インドネシア語の口語には、ジャワ語の語彙や文法が非常に多く混入されているため、実際に使われているインドネシア語の理解には、ジャワ語の知識が欠かせません。話者数は8000万～1億人とされ、世界的にみても、母語話者数の多い言語です。その古い形である古ジャワ語の記録は9世紀に遡り、東南アジアで最も古い時代から文字による記録が多く残る言語の一つでもあります。

2015年の古ジャワ語研修に続き、今回は現代ジャワ語の研修を行います。現代ジャワ語は15～16世紀に始まるジャワのイスラーム化とともに使われるようになった言語で、その特徴は、複雑な敬語体系と語彙の豊富さにあり、それゆえに、他民族や外国人による習得が難しいとされてきました。そうした特徴は、ジャワにおいて長い間、ヒンドゥー・仏教文化が栄え、その後次第にイスラーム化し、さらにはオランダによる植民地統治を受けた歴史が反映されたものです。その歴史・文化背景を踏まえた言語研修になります。

研修の対象者について

ジャワ語をはじめとするインドネシアの諸言語及びインドネシア語に関心のある方、ジャワの文化や歴史に関心のある方に特にお勧めできる研修です。会話よりは、文法や講読が中心の授業になりますので、そうした内容に関心のある人にお勧めです。講師はインドネシア人と日本人ですので、講義はインドネシア語と日本語で行いますが、インドネシア語がわからなくても、日本語の解説がつきます。また、簡単な英語ができればインドネシア人講師との意思の疎通は問題ないと思います。文字を含め、ジャワ語の予備知識は必要ありませんが、インドネシア語、マレーシア語の知識があるとより理解しやすいでしょう。

研修内容について

本研修では、まず文法の理解・習得をめざし、文法の説明や作文の練習、簡単な文章の読解をおこないます。ジャワ語は、文法も語彙も普通体(ンゴコ)と丁寧体(クロモ)で異なりますので、2回文法を勉強することになります。その後、会話の練習をおこないますが、これもンゴコとクロモではリズムが異なりますので、主にその違いを理解していただく練習になります。その後、さらに文章講読(現代文と古文)をおこない、文法や語彙知識に基づいた辞書の引き方を勉強していただきます。ジャワ文字の説明も行う予定です。また、文化講演で、複雑な言語の背景にあるジャワ社会の歴史や文化について専門家にお話をさせていただきます。研修が終了した時点では、ジャワ語の学習を続けていく基礎ができるようになることを目指します。

テキストについて

テキストは、本研修用に、講師が執筆したのを使います。文法、作文、読解を含みます。

研修期間および研修時間について

2017年8月1日(火)～2017年8月25日(金) 102時間
 午前9時00分～午後5時00分(土日および8月11日～16日は休講)

文化講演について

実施予定. 詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします.
<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2017>

受講料について

61,200円(教材費込み)

講師プロフィール ●:主任講師

●菅原 由美(すがはら ゆみ)

大阪大学大学院言語文化研究科 准教授

2002年東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程地域文化専攻、博士(学術)取得. 2004年東京外国語大学21世紀COEプログラム史資料ハブ地域文化研究拠点ポストドク研究者を経て、2005年より天理大学国際文化学部アジア学科講師. 2010年に大阪大学世界言語研究センター講師として着任し、2012年4月より現職.

主にインドネシア近代史、イスラーム史について研究.



RAHAYU, Yosephin Apriastuti(ラハユ, ヨセフィン アプリアストウティ)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所外国人研究員/ Lecturer, Wisma Bahasa, Yogyakarta

2003年インドネシア共和国ガジャマダ大学大学院修士課程修了. 1995年よりYogyakartaのWisma Bahasaにてジャワ語講師を務める.

2016年10月1日に東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所外国人研究員として着任.

主に、ウッタラカンダ:ムラピ・ムルバブコレクション所蔵の古ジャワ語韻文について研究している.



ハンガリー語、ジャワ語の受講上の注意について

- 会場には駐車場はありません。受講時は公共交通機関をご利用ください。
- 本研修の受講生は正規の学生ではありませんので、学割定期券の購入はできません。
- ハンガリー語およびジャワ語を受講される方の宿泊施設については、ご自身でご手配くださいますようお願いいたします。

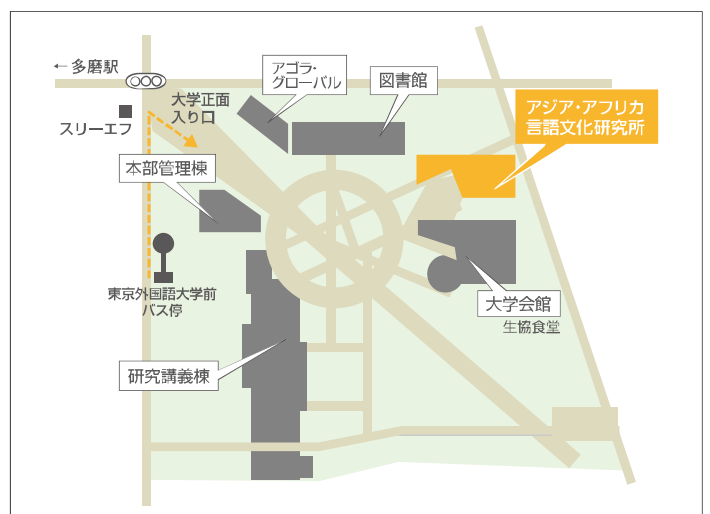
研修会場について

東京会場 [ハンガリー語, ジャワ語]
 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
 〒183-8534東京都府中市朝日町3-11-1
 TEL 042-330-5603, FAX 042-330-5610

AA研へのアクセス



- JR中央線「武蔵境駅」から西武多摩川線に乗り「多磨駅」で下車(所要5分)。駅から徒歩5分。 ※西武多摩川線は12分間隔。
- JR中央線「三鷹駅」から小田急バス鷹52系統に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要30分)。停留所から徒歩2分。
 ※小田急バス時刻表:
<http://www.odakyubus.co.jp/cgi-bin/search/mapsearch.cgi>
- 京王線「飛田給駅」から京王バス飛02系統・調33系統(いずれも多磨駅行き)に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要7分)。停留所から徒歩2分。
- 京王線「調布駅」から京王バス調33系統(多磨駅行き)に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要20分)。停留所から徒歩2分。
 ※京王バス時刻表:<http://www.bus-navi.com/>



2017年度短期言語研修 [特別企画] 史料講読研修「中国古代文書簡牘」 Short-term Intensive Language Course 2017 Special program on Readings of Ancient Chinese Administrative Tablet Documents

》 若手研究者向け 》 合宿形式 》 日本語での授業

簡牘(かんとく)とは、竹や木の札(ふだ)のことをいう。日本でよく知られている木簡(もっかん)も、その仲間である。古代中国では、木のほか、竹も多く書写材料として用いられていたが、木簡の方が、加工性に優れており、竹簡(ちっかん)では簡単に代替できない面がある。日本で紙が普及した後長く紙木併用の時代が続いた所以もそこにある。

様々な形に加工できる木簡は、書写内容と並んで、簡牘の形態にも多くの意味が込められており、中国では、主として行政の場において重要な役割を果たしていた。秦漢時代の行政現場で活躍した文書簡牘の実物が、数多く出土しているため、本研修では、その出土場所を簡牘のフィールドと捉え、書写内容・形態・出土状況から文書簡牘を総合的に解読する。とくに、形態に関しては、実際にノコギリやノミ等を手にして簡牘を製作する演習を通じて、その理解を深めていく。

文書簡牘が出土するフィールドは、大きく二種類に分けられる。一種類は、甘粛省の敦煌から内蒙古自治区の額濟納旗(えちなき)にかけて広がる乾燥地帯であるが、そこは漢代の長城の西の端に当たり、武帝期に新たに郡が置かれた地域である。烽燧(ほうすい)(のろし台)等の軍事施設や「置」と称せられる駅舎や関所等に、施設廃止の当時放置されたまま、数多くの簡牘が砂に埋もれて現代まで残存して発見されるに至っている。これらの「西北漢簡」の面白いところは、出土遺跡が当時の簡牘の使用空間と重なるので、出土地点に関する情報を簡牘記載の文字情報と付き合わせることで、当時の日常的な行政業務が復元できることである。

もう一種類は、湖南省のように地下水が安定して高い水位を保つ地域の古井戸等である。役所で不要となった文書や記録が井戸等に廃棄されたものと推定されるが、資料的まとまりを示すゆえに、当時の「ゴミ」ながらも高い史料価値を有する。一つの典型例は、秦代の遷陵県が置かれていた湖南省龍山県里耶鎮の古井戸(と近くの壕)であるが、「行政ゴミ」としてそこに捨てられた「里耶秦簡」の構成からは、それぞれの簡牘の「ライフサイクル」が見えてくる。つまり、簡牘がどこでどういう目的で作成され、種々の役割を演じつつ、幾つもの役所を移動しつつ、遷陵県での処理と保管を経て、最終的に不要と判断されてその生涯を閉じるに至った経緯等がわかる。しかも西北漢簡が軍事系統の行政への偏重も指摘されるのに対し、里耶秦簡を残した遷陵県は正真正銘の民政行政機関であるだけに、民政の在り方、つまり行政と関わるという限定ながら当時の社会生活が生き生きと伝わってくる。

共催: AA研共同利用・共同研究課題「里耶秦簡と西北漢簡にみる秦・漢の継承と変革——中国古代簡牘の横断領域的研究(2)」

研修の対象者について

本研修は、長年簡牘の現物調査を実施し且つ毎月三日間文書史料の共同講読を行ってきた研究仲間が企画したものであり、主眼は古文書学的研究手法を次世代の若手研究者に伝えることに置かれている。よって、本研修は大学院生および若手研究者を主たる対象とする。ただし、学術研究を志す学部生の参加も歓迎する。

また、中国古代の文書簡牘研究は、世界史に通じるものと理解しており、日本史はもちろん、古代ローマ史やオスマン帝国史等、分野を問わず、広く文書に関心を持つ研究者にとっても貴重な機会となると考える。

なお、通常の公開講座にご関心のある方は、2017(平成29)年度TUFS オープンアカデミー講座(秋期間)「原資料で読む中国古代文書行政入門」をご検討ください。

研修内容について

日本には、西北漢簡を対象とした古文書学的簡牘研究の厚い蓄積があり、文書史料の様式論的分類と綿密な集成がその機軸を成すが、本研修では、そうした伝統を継承する。具体的には、西北漢簡の文書史料から講読を開始し、且つ様式論的特徴から文書の種々の類型を正確に理解することに重点を置く。読む材料は古漢語でも読み方は通常の漢文とは異なる。また、講読範囲を里耶秦簡にも広げ、且つ様式論的特徴に出土地点等に関する情報を加味し、文書が時空を移動し時と場によって機能を変えていく姿、つまり文書のライフサイクルを追跡していく。

簡牘制度と二人三脚で発展した中国古代の文書行政は、社会経済や文化の在り方にも多大な影響を与えた。本研修では、文書簡牘と高い類似性を示す葬送簡牘をも取り上げ、葬送儀礼との関連性を示すほか、「簡牘に見る古代社会生活史」という講義を設け、簡牘制度の社会的広がりについても学習を行う。

なお、授業は三つの形式をとる。「概論」は講義形式で関連する基礎知識を教授する。「講読」は講師の指導により文書史料を講読する。「演習」は受講者が自ら手を動かして、文書史料の分類・集成もしくは製作技法を実践して学習する。

テキストについて

講義レジュメ・講読資料・演習資料を配布する。講読資料には、書き下し文・語釈・案語を付すが、演習資料は白文とする。また、製作演習には、木材と道具を提供する。

研修期間および研修時間について

2017年9月6日(水)～2017年9月10日(日) 30時間
午前9時00分～午後5時50分(初日は午後1時から授業開始、最終日は午後0時10分まで)

※プログラム詳細は後日以下のページに掲載します。
<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc/silc2017>

受講料について

18,000円(教材費込み)

その他注意事項

本研修では、修了者には研修終了後、修了証をご自宅へ郵送いたします。

講師プロフィール ●:主任講師

●陶安 あんど(すえやす あんど)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授

2000年京都大学にて博士(法学)の学位を取得。東京大学東洋文化研究所研究機関研究員を経て、2001年4月東京外国語大学に着任、2006年4月より現職。

主に中国法制史、秦漢簡牘史料について研究。



目黒 杏子(めぐろ きょうこ)

京都大学人文科学研究所 特定助教

2007年京都府立大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。2008年4月以降、京都府立大学や京都大学人文科学研究所にて非常勤講師を務め、2015年4月より現職。

主に中国古代史、国家儀礼について研究。



角谷 常子(すみや つねこ)

奈良大学文学部 教授

1986年京都大学文学研究科修士課程修了。1997年堺女子短期大学助教を経て、

2004年奈良大学文学部史学科助教授に着任。2009年4月より現職。

主に中国古代史、社会関係史について研究。



榎山 明(もみやま あきら)

東洋文庫 専任研究員

2007年京都大学にて博士(文学)を取得。

1990年4月より埼玉大学教養学部助教授に着任し、1995年4月より教授を務める。2010年4月より現職。

主に中国古代史、史料論について研究。



鈴木 直美(すずき なおみ)

明治大学文学部 兼任講師

2009年明治大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(史学)取得。その後現職。

主に中国古代史、簡牘による葬送儀礼について研究。



高村 武幸(たかむら たけゆき)

明治大学文学部 准教授

2006年明治大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(史学)取得。その後、慶應義塾大学、国士舘大学などの非常勤講師を務め、2009年より三重大学人文学部准教授に着任。2014年4月より、現職。

主に秦漢簡牘史料、地方行政と地域社会について研究。



Short-term Intensive Language Course 2017
Special program on Readings of Ancient Chinese Administrative Tablet Documents

中国古代文書簡牘の受講上の注意について

- 会場には駐車場があります。
- 本研修の受講生は正規の学生ではありませんので、学割定期券の購入はできません。
- 申込書に、宿泊日および日付ごとの各食事の必要の有無についてチェックの上、お申込みください。ようお願いします。（事前申請のみ。当日受付はできません。）
受講料と合計した額をお振込みいただくこととなります。
- のこぎり等を使用しますので、各自で傷害保険に加入いただきますようお願いいたします。

宿泊費・食事代について

25,320円（16,440円/4泊5日 2,200円/朝食4回 2,160円/昼食3回 4,520円/夕食4回）
内訳：4,110円/1泊 朝食代：550円/1回 昼食代：720円/1回 夕食代：1,130円/1回

研修会場・宿泊場所について

大学セミナーハウス
〒192-0372東京都八王子市下柚木1987-1
TEL 042-676-8511(代表)
URL:<https://iush.jp/>

JR八王子駅をご利用の場合

所要時間は約25分です。
八王子駅南口より
八60 南大沢駅行き、八61 南大沢駅行き、八63 由木折返場行き
の上記3つのいずれかにお乗り下さい。
降車の停留所は、「野猿峠(やえんとうげ)」です。

JR北野駅をご利用の場合

所要時間は約15分です。
北野駅北口より
八60 北野駅北口・殿ヶ谷戸経由南大沢駅行き
八61 北野駅北口・中山経由南大沢駅行き
八63 北野駅北口・中山経由由木折返場行き
北03 殿ヶ谷戸経由南大沢駅行き
のいずれかにお乗り下さい。
降車の停留所は、「野猿峠(やえんとうげ)」です。

京王相模原線 南大沢駅をご利用の場合

所要時間は約30分です。
北03 北野駅北口行き
八60 八王子駅南口行き
八61 八王子駅南口行き
の上記3つのいずれかにお乗り下さい。
降車の停留所は、「野猿峠(やえんとうげ)」です。

◆アクセス

